

# 学びびing





### 「人の楽しみをつくる人でありたい」

公民館の仕事が好きです。人とかわりを持つことができ、あったかい気持ちになれるからなんです。団体さんとのやり取りなどを通じて市民の方とのつながりが深くなったり、趣味の活動を盛んにされているみなさんと話す機会も多くあって、毎日が楽しいです。

でもコロナの関係で休館になって、講座ができないことが多くなり、みなさんの楽しみが減ってしまって……。『まだ開かんの?』『まだ使えないの?』と、いつも使っている団体さんからの電話を受けることがありました。何か方法があればな、という気持ちでした。「にぎわい創出拠点」となることを目的として造られた施設でもあるので、中央公民館を地域の拠点にしてほしいと思っています。そうできるかどうかは私たちの努力次第だと感じています。

オンラインという選択肢があることを、講師の方に言われました。知識がないし、受講生もできる方がいないから、ちょっと無理かなと思っていました。そんなときに、森本さんに声をかけてもらって、社会教育実践専門講座に参加しました。いろんな実践、アイデアを聞いて、皆さんいろいろ考えていてすごいなと思いました。普段は他の公民館や社会教育関係の方と関わることがないので、新鮮でしたし、参考になりました。オンライン講座として、まずはZoom講座を第一歩にして始め、いろんな講座へ広げていきたいと決めました。

Zoom講座に集まってくださった方は玉野市全域から10人。30代から70代まで幅広い年齢層の方でした。サポートボランティアを高校生にお願いしました。はじめは遠巻きになって見ていた高校生も、分からなくて困っ



この講座で、地域学校協働活動で活動されている地域の方にもオンラインの技術を持ってほしかったんです。

参加者もボランティアの高校生も主体的にこの場を良くしていこう、いい雰囲気にしていこうという感じがありました。あきらめずにみんなでやっという雰囲気も・・・それに人とのふれあいやつながりも大切にできました。

これからも、事務局だけではなく、参加者、対象者、講師など、その場にいる全員で講座を作りあげていくことを大切にしたいです。今回の講座はそのきっかけになったと思います。

中央公民館と社会教育行政は、目的や考え方は一緒なので、これからもこういう活動を続けていきたいですね。

玉野市教育委員会

指導主事(主任) 森本 直樹 さん

ている参加者の様子を見て、だんだん近づいていって、Zoomに入れるまで、ずっとついてくれました。これまで、高校生と一緒にやろうという考えはなかったんです。でもやってみて、高校生は何ごとにも前向きで、とっても優しくて、いい雰囲気になるんです。高校生がいなかったら講座ができなかったと思います。

今回のゴールは、Zoomに参加できるようになること。そこまでできれば何とかなる、そこからオンライン講座を立ち上げて、参加できるようにはしたい、そう思っていました。実現できたら、いろいろできるかなと思います。ま、やってみないと分からないですけど。とりあえず、参加しやすいものから組み立てていきたいです。人気がある歴史講座といったところから、参加者をどんどん増やしていきたい。そして、来館者増につながりたい。

ここ、中央公民館も、もっと盛り上がりたければいいなと思います。

今回の講座では、すべての人に感謝です。同僚や上司にも気にかけてもらって、一人だったらできていなかったと思います。楽しかったけど、こうすればよかった、ああすればよかったと思うことはいっぱいあって、それを次の講座につなげていければいいかなと思っています。

地域の拠点である公民館で働く自分は、『人の楽しみをつくる人でありたい』『人と人をつなげる人でありたい』といつも思っています。

玉野市立中央公民館

職員 内藤 紀恵 さん



### 「学び続ける先にある喜び」

日々業務に取り組んでいる中で、地域とつながりたい、自分たちの仕事を知ってほしい、地質って楽しいものだから多くの人に興味を持ってほしいといった思いは常にありました。その思いを伝えるために直接伝える機会が欲しかったんです。その機会を「みらプロ」で得ることができました。対象が子どもだったので、良いものは良い、悪いものは悪いと反応がストレートに返ってくるので、それが会社の成長にもつながると思いました。

僕たちの授業で子どもたちに学ぶことの楽しさを伝えたくったんです。学ぶためには、興味を持つこと、そして、自ら動くことが大切です。地質を通して、そのきっかけを生むことができればと思っていました。学ぶって楽しいんだって。

子どもを対象にした取組は初めてだったので、すべてが手探りでした。実験はどうするのか授業をどう進めるのかと、社員同士で悩みながら進めていきました。授業のプランを作ってみると、伝えたいことや体験してもらいたいことが多すぎて到底2時間には収まらなくなりました。でも、本物に触れて感動してほしいので、なるべく1人1つのサンプルを用意し、休憩時間に自由に実験できる体験コーナーを作ることになりました。社員みんなが石や土の採取へ行ったり、実験について考えたりと意欲的に準備に取り組んでくれました。

正直、普段の業務に加えての授業づくりは大変だったけど、返ってくるものはすごく大きかったです。子どもたちが興味を持って授業を受けてくれたり、授業後のお礼の手紙をもらったり、すごくうれしかったです。社内

フジタ地質さんの授業では、子どもたちの思考の流れを想定し、理論立てて授業を行っていただきました。場づくりも素晴らしく、本物の石や土だけでなく、子どもたちが休憩時間に実験できるように体験コーナーも設定していただき、博物館のようでした。本物に触れ、体験しながら、地層だけではなく、現在の暮らしや産業について考えることもできました。

授業者の熱量が子どもたちにも伝わっていて、同じ熱量で返していましたね。

今回の授業を受け、私だけでなく子どもたちも、何気なく見ていた景色が今までとは違って見えるようになったと思います。



備前市立伊部小学校  
教諭 小林 誠一 さん

でも子どもたちからの手紙を回覧し、社員全員で喜びを共有しました。喜びややりがいはずごくありましたね。また、社員みんなで子どもの視点に立ち、授業の組み立てを考えたり、いろいろな所へ行き話を聴いたり、フィールドワークをしたりして多くを学ぶことができ楽しかったです。会社一体となって取り組めたので、社員の輪が広がりましたし、地質と文化について深く考える機会となり、今まで以上に地質が好きになりました。

また、備前陶芸センターの方や小林先生など、普段出会えない方々とも出会い、関わるのができていい機会でした。

このようなことに時間をに使わせてくれる会社にも感謝しています。これだけのことをさせてくれるのも、うちの

会社の強みですね。

「みらプロ」を通して、自分たちが子どもたち以上に楽しみ、成長できたと思います。相手のことを考えて何か役に立つことを行うことは、仕事でも共通していますよね。これも再確認できました。大変だからといって学びをやめるわけではなく、学びがあれば仕事をしていても楽しい。そして、感謝されて喜ばれるとさらに挑戦しよう、学ぼうと思えます。

自分たちが楽しんで、相手も楽しんでもらえて、これ以上のことはないですね。

株式会社フジタ地質  
地質調査部 部長 川口 浩史 さん



### 「分からないことが分かったと 楽しい」

友だちに教えてもらってユニスタ会に参加しました。そうしたら、学校ではない場所でもこんな実験ができるんだと思ってわくわくしました。

ユニスタ会が終わって、家族や友だちと一緒に施設に行きました。施設のバッジは、全部集めました！でも、今年から津山郷土博物館が増えたよと聞いたから、絶対行くぞと思っています。

施設では、動物の標本、ほんものの土器など、普段見ることができないものを見ることができたり、水鉄砲なんかを自分で作るイベントもあって楽しかったです。特に美術館はお気に入り、動物の毛皮を触ったり、学芸員さん体験で掛け軸をくるくる巻いたりしました。実際にやってみると難しく、美術館で働いている人

ですごいなって思いました。それに気になったことはすぐに聞くことができて分かりやすく教えてくれるから楽しいんです。知らない大人から教えてもらえることは、どんな感じなんだろうと思ってドキドキはするけど……。

「学校ではない場所で、専門の方の生き生きしている姿を見ることで、感じることや学ぶことがあるんだと思います。施設の人が楽しそうだから息子も楽しいんだろうと思います。様々な分野の人から影響を受けて欲しいなって思います。」とお母さん。

とにかく、「きっず☆ユニバ」は、普段できないことができるし、分からないことが分かって楽しいです。新しいことを発見したら「そうなんだ！」って驚いて、説明を聞いて納得します。絵の具について教えてもらった時

「やったー、ついたー。」火起こし体験で火がついた瞬間です。この瞬間は子どもたちの心にも変化をもたらします。それまでの「これでもか、これでもか……」と必死になってもがいていた表情から一転してパツと明るくなります。施設でのアクティビティにはこうした体験によって心の変化をもたらすものが少なくありません。フィールドでの自然を観察するゆっくりとした活動、ハイキングやオリエンテーリングといった動きのある活動、時代を超えて本物の文化財に触れる活動、知ってはいるけど直接触れてみないと得られない、体験活動には宝物があります。気軽に体験できるイベントが多くの施設で催されています。まずは、一步踏み出して、体験してみませんか。



吉備中央町立大和小学校  
教頭 宇江 賢 さん



は家に帰って、すぐに絵の具セットと比べてみました。聞いたことや体験したことを後から思い出して、学校や家ではできないことをやったなって思ったり振り返ったりして、納得しています。振り返っているときは、楽しかったな、また行きたいなって思います。施設に行くようになって、いろんなことを知って、いっぱい思い出せるようになりました。学校で同じことを勉強したときは知ってることだから、心の中で「ぼく知ってるよ」って、ちょっとだけ得意な気持ちになります。

自分が楽しかったから、周りの友だちにもきっず☆ユニバをおすすめしました。その子も行ってみたいって思ってくれるかな?と考えながら。だって、行ったら絶対に楽しいから。それに家族と行くのもとっても楽しいから。

「私とだと、一緒に見て歩くだけになってしまうと思うんです。でも、見るだけではなく、そのこと・ものの背景を聞くことができて、楽しいんだろうなって思います。触ってみたり、匂ってみたり、あのとき見たよねと親子でよく話してます。自分からノートにまとめたり、身近なものと比べるようにもなりました。いろんなところに興味を持ってくれるから、素敵だなって思います。自分も楽しんでいます。」とお母さんも楽しそうにしています。

きっず☆ユニバのいいところは……実際に体験できる場所、専門の人に話を聞ける場所、いろんな施設に行ける場所。スペシャル☆ユニ日は本当にスペシャルだし、ぼくは満足度100%です!

小学4年生 岡崎 義弘 さん



### 「それぞれ違うから、公民館っておもしろい」

館長になって3年目になりました。60歳までは民間の製造業に勤務していたんです。それまでは全く公民館と縁がなく、6町内会の中で館長は持ち回りで、順番が自分の町内会に回ってきたときに町内会の役員をしていて、適任を探したけどなかなか見つからず。そんな気もなかったけど「おまえがやれや。」と言われて…。業務の内容も分からないし、生涯学習についても関わったことがなかったので悩んだんですけど、ずうっと同じようなところで働いて、全く違う仕事をやってみるのもいいかなと思ひ、引き受けました。

今はやってよかったと思っています。全く違う業種でもあるし、生涯学習や社会教育にも携わっていない人間だったのでおもしろいと思って。1年目の途中で、

「1回、津山市の公民館23館全部を回ってやろう」と、1館1館、館長さんにアポを取って、1時間くらい話をさせてもらいました。職歴、何をやっているか、どんな考えを持たれているかを尋ねました。前職が学校関係の方や行政におられた方、自分みたいに民間におられた方もおられ、みんなバラバラ。やっけることもバラバラ。その地区その地区で、公民館がどういふ使われ方をしているのかもいろいろ。そのことを知ることができたのが、一番刺激になりました。なかなかおもしろいなど。

研修会に参加して、津山市の形態もそれぞれ違っているけど、岡山県内にもいろいろ公民館があつて、いろいろ取組をしているんだつて知りました。教育委員

高山館長をはじめ、学校運営協議会にいられている館長さんはみなさん気さくて、館長さん同士仲がいいんです。地域のことに関して熱い思いを持たれていて、中学生とか地域の子どもたちが公民館に来ることで、そこから地域の輪がどんどん広がっていって地域が活性化していくように、いろいろ策を練ってくださっています。

みなさんアイデアマンで、考えを出し合い、アレンジして発想を膨らませてくださるので、話していて楽しいです。もしかしたら、こんなことも地域でできるんじゃないかなつて、そういう話をしてくださるんです。

こんな協力をしてもらえたらありがたいなつていうことを応援団としてやっける下さろうとしていて、うれしくなつてきます。



津山市立津山東中学校  
主幹教諭 永井 啓一 さん

会の方が館長をやっておられるような体制とか、エリアが広がつていろいろ文化的なイベントを企画している公民館とか、やっけることが全然違ふんです。そういうところがおもしろいなつて。

館長をやっている間くらいは、いろいろ情報をもらつたり、自分の地域がどんな地域か見直す機会にはなつたりするかな…ということを感じていますね。例えば、この地区の歴史についてもそうなんです、知らず知らずのうちにそのことを知っている方が少なくなつていて、何か残つてつないでいかなつていけないことに、すごい危機感があります。最近、そういうことも掘り起こしていきなつたいなつて思っています。

せつかくここにいるんだから、このことをもつみなさんに知つてもらいたいとか、年配の人は知つても若い人は知らなかつたらつないでおいてもいいんじゃないかなつとか、そういうことを最近思っていますね。そういうのができればおもしろいかなつと思つて。できればちよつと変わった行事、「ちよつと何するん?」「こんなおもしろいんじゃない?」つていう、今まで企画したものではないものをやっけるみたいなど。公民館発の主催講座として、そういうのをいろいろできたら、ちよつとおもしろくなりそうだなつて思っています。

津山市清泉公民館  
館長 高山 弘道 さん



地域での社会貢献活動などができなくなっている中で、「ペーパー☆らんど」が実施できて本当に彼女たちは幸せだったと思います。

最初は「どうしよう。」と聞きに来ることが多かったのですが、準備を進めていくうちに自分たちで相談したり、考えたりすることができるようになっていました。

実際に子どもたちと一緒に活動したのは2時間程度だったと思うんですけど、自分たちの考えたことが形になって、そして実際に実現できたことは、彼女たちの貴重な経験になったと思います。

この経験を通して、自信が付いて、自分の言葉で自分の事を堂々と語れるようになったことは、将来どのような進路に進むことになってもプラスになると思います。



岡山県立西大寺高等学校

教諭 河田 久美子 さん

## 「楽しい！幸せ！！

## Happy!!!」

「楽しんでほしい。」「集まった子どもたちが仲良くなるきっかけにしたい。」「年上の人と遊ぶ楽しさを味わってほしい。」これが私たちの想いでした。せっかくだから、学校や家ではあまりできない遊びで子ども同士が仲良くなれるものをやりたい！何がいいだろう？「あ、新聞紙を使ったらおもしろそう！」だったら、私たちは「ペーパー☆らんど」をしよう！私たちの気持ちは子どもたちに伝わるのか、準備は万全にしたつもり……。でも、不安でいっぱいのままイベントに臨みました。

始まってしまうと時間を忘れるくらい楽しくて、あっという間でした。私も子どもと一緒に遊んでいました。イベントを通して、もっともっと子どもが好きになりました。

この経験を通して、「自分も楽しむことって、大切だな。」ということを実感しました。

大倉 もえ さん (写真一番右)

誰とでも、コミュニケーションをとれる人になりたいと思ったんです。

子どもと接すると楽しくて、かわいくて……。気付いたら子どもと一緒に目線で話をしていました。

相手と同じ目線になるということは大切で、将来私の強みになると思います。

赤堀 朱梨 さん (写真右から2番目)

「これは、チャンスだ!」と思って参加しました。

緊張している子どもたちとどうやったら打ち解けることができるかなと思っていたけど、名札づくりを一緒にして「好きな色は何?」「好きなマークは何?」と自然と会話が生まれました。メンバーともアイコンタクトをとりながら、進めていくことができ、私たちもつながったような気がします。

「やっぱり子どもが好きだな。これを仕事にした。」と自分の気持ちを確認することができました。

澤山 優花 さん (写真一番左)

内容を自分たちで企画できるボランティアに魅力を感じ、参加しました。

気付くと年の離れた友達みたいに遊ぶことができました。子どもたちと仲良くなれたことは良かったけど、それ以上にメンバー同士が今まで以上につながることができて嬉しかったです。

これから先、何かひとつの経験を通して、さまざまな人と出会い、たくさんの人とつながっていけることを実感しました。これが絆ですね。

矢尾 遥香 さん (写真左から2番目)

この「ペーパー☆らんど」は私たちの「楽しい!幸せ!!Happy!!!」な時間でした。

岡山県立西大寺高等学校3年生 「ペーパー☆らんど」チーム

